

事例の区分

事業区分	農業・農村整備（ほ場、用排水路等）事業
配慮概要	自然環境の保全

事業の概要

事業名	県営中山間地域総合整備事業 富来東部地区
実施場所	羽咋郡富来町尊保外21集落地内
事業主体	石川県（担当課等：中山間地域対策総室）
実施期間	平成11年度～平成16年度
全体事業費	742,500千円
事業規模等	<ul style="list-style-type: none"> ・農業用用水施設整備 1式（頭首工） ・ほ場整備面積 25ha、暗渠排水面積 25ha
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・農業用用水施設整備（頭首工） 用水施設の整備により、用水不足の解消・維持管理の合理化を図る。 ・ほ場整備・暗渠排水 農地の集団化と農作業の合理化による生産性の向上と、複合経営による農業経営の安定を目指した農業基盤整備を行う。

環境配慮の内容

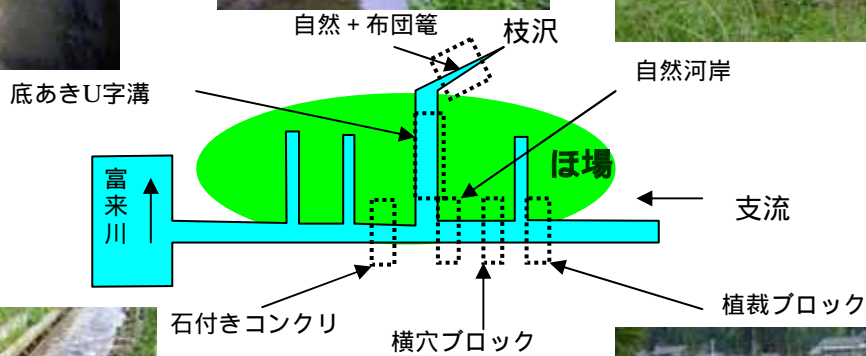
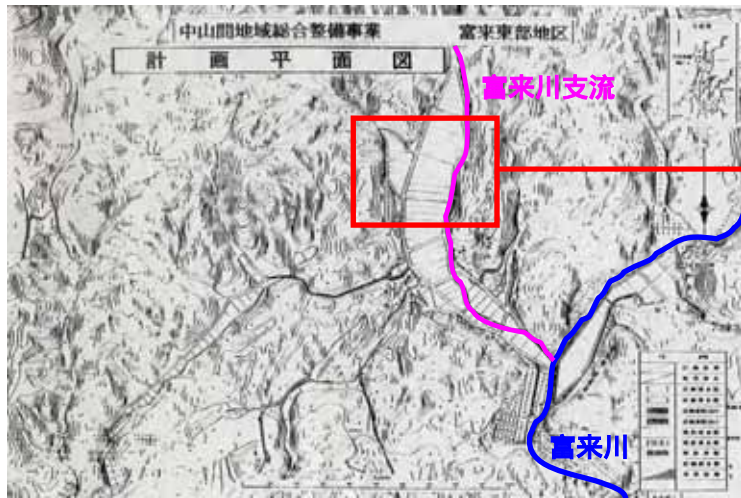
- ・農業用用水施設整備（頭首工）
改修にあわせ左岸側に魚道を設置することにより、魚類の遡上に配慮した。
- ・ほ場整備（富来町尊保地内）
山際の幹線排水路は基岩が露出していたので、底面の整形は行わず基岩の自然な凹凸を残した。また、護岸については多自然型（魚巢、植生等）ブロックで整備し、魚類等の生息に配慮した。

環境配慮の結果

- ・本地区は富来川沿線に受益地があり、今年5月尊保地内においてサクラマス6匹の遡上が確認された。
- ・幹線排水路の底面は、基岩が露出しており場所により凹凸があるので、結果的に浅瀬や深みがある変化に富んだ川となったことが多様な生物を育む要因となり、頭首工の魚道設置とあわせてサクラマスの遡上に繋がった。

今後の留意事項等

- ・環境配慮工法の良し悪し等、ほ場整備が自然環境に及ぼす影響を総合的に判断するには、事業実施前の調査が重要である。



調査区間	底質	壁面	優先魚種	性状
植栽ブロック	岩、砂	植栽ブロック	ヤマメ	淵
横穴ブロック	砂、岩	横穴ブロック	サドジョウ	中瀬
自然河岸	岩、砂	岩、砂、草	ヤマメ	瀬、淵
枝沢	砂、岩	岩、布団籠	タカハヤ	中瀬
U字溝	砂、岩	コンクリ、草	サドジョウ	瀬
石付きコンクリ	コンクリ、石	植栽ブロック	ヤマメ	早瀬

幹線排水路（富来川支流）を環境に配慮した左記6種類の工法で整備を行った。整備後、魚類調査をし、水路断面の違いが魚の生息にどのように影響するのかを調査したところ、壁面による影響は明らかにはならなかったが、底質により魚類相（魚の種類や体長、重さ）が大きく異なっていることがわかった。5月には富来川支流（付近）においてサクラマス6匹の遡上が確認されている。